

の中で遊んで居るのは氣の毒に思つた。茲には少し大きい本式のブランコがあつたが、他と一様な砂利敷なので少し危険の感じがした、此他輕便ブランコ、ポート形シーソー、固定圓木などが見えなければ多くの子供の中には爲うことなしに砂利の上に乗つてボンヤリして居るものが尠からずあつた。熱心な大阪市の管下にある最近の建物であると云ふのは實は樂しみにして見に行つただけれど設備の上には別段苦心の跡もなく中の仕事も欠けて居る位で然したこともなく、痛く失望し、新築紀念の繪はがきを保母の方より贈られた好意に感謝しつゝ急いで此處をば出で中大兄、汎愛、愛珠の三幼稚園を見た。時間過のことで、保育の實際を見ることは出来なかつたが聞きしに勝る設備の立派な有様を見て驚嘆の眼を見張つた、夫れにしても當局に之を指導する人がなく普及の度が充分に行かず小學校との調和連絡が甘くつかない爲めには是の設備も充分な功績を擧げることが出来ないが視察第一日の状況である。

自然物を材料とせる 子供遊びのいろく

(一) 稻の種蒔
水盤に土と水とを入れ幼児をしてその中に種を蒔かしむ、但し種は始めより三四粒づゝ一緒にし列を正しく蒔かしむ、稻の生長したる後は其の中に小魚など入るゝも面白かるべし、而してこれは種子の發芽し又實を結ぶ有様をよく觀察する事を得るが故に甚だ有益なり。

(二) 口なしの花
此木を園中に植ゑ花の咲きたる頃には其の花を幼兒にとらしめ其の中央に捧片をさしめ口にて吹けば風車となり水流に入るれば水車となる、其の他小供の考へにまかせて種々の者を作らしめなば興味あるべし。

(三) 蓮華
之れは冬の中に種を蒔き置くなり春に到れば愛らしき花開きて目をたのしましむるのみならず之を摘む事の樂しみは實に深きものなり摘みし花は糸

にて束ね弄ぶなり。

(四) 相撲取り草

蓮華と同じなれども之れは二人の兒童をして各一花を持たしめその花を互にからめて引き合ひ花の落ちし方を敗とす、之れを相撲を取らすとて大に喜び弄ぶ。

(五) ふとゐ はす

共に水盤に植ゑて畑の周圍に置き、又は室内に飾りをくもよし、目を娛ましめ且其の物に對すに觀念が慥にするの功あり、

(六) かやつり

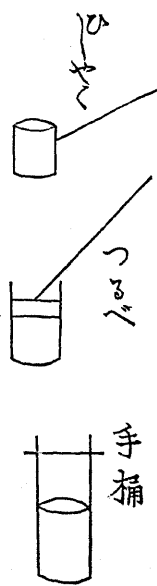
之れは雜草の中に生ずる草にして、其の花梗三角柱をなして五六寸の長さなり、之れを取り二人の兒をして兩端より二つに裂かしむれば方形となる

(七) はたるぐさ(つゆぐさ)

之れは需用の多き地にては培養すると雖も、通常は雜草中に生ず、其の花藍色にして美しく、之れはその花を摘みとりてしばり青き汁を出し之にてものを染むるなり、又その實は俵の如き形なれば幼兒は好んで之れを弄ぶ。

(八) たけのこ

主としてまたけの子にして直径一寸ばかりなり、普通に竹の子と稱するものより少しく成長せしめたるものをとり皮を去れば節間一寸乃至二寸位にして隨意に小刀にて切り得る程の柔かさなり、之を以て釣瓶ひしやく又は手桶等を作る實に面白き遊びなり、小刀は極めて鈍きものにてブリキにてもよろし。



(九) 菖蒲

菖蒲の葉を去り其の中央部は軸として之を切り矢を作り又隨意の形に切り得るを以て種々のものを作るを得。

(十) ふぢまめ けいと

ふぢ豆の未だ充分熟せざるをとり鶏を作るなり、之をなすには、けいとを以つてとさかとなし他の

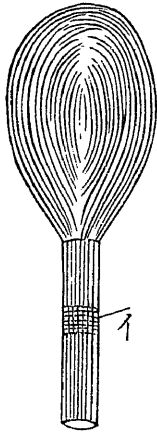
草をとりて尾となし棒片をとりて足となす、之れも亦少し方法を異にすれば他の鳥を作るを得べし

(十一) やまぶき

山吸の莖をとりて其の中の木髓を抜き出す時は白くして美しくしきものなれば之を長くとりては種々の形に結びて美しく、又豆細工の一部分に用ふる時はよき飾ともなり幼兒は木髓を抜くを大に喜ぶものなるに且つ之を種々に用ふるに到つては一層喜んで之れを弄ぶべし。

(十二) 大ばこ

大ばこの葉の成長したるものをとり下部の肉を去りて糸を出し圖の如くなし機械をなす、イ部を上



下するなり。又か糸を出し、たるもの十個以上も結びて手玉の如く弄びても面白し、また大ばこの花梗を互にもち引き合をなすも面白し。

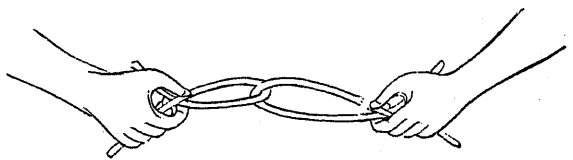
(十三) ふへ 蒲に似たる極めて小さき草にして其の花の穂を脱きてそのあとを口にて吹き笛となす愛らしき音を發するものなり。

(十四) ほうづき

千なり、丹波、犬(かなり)等種種あれども、此等は皆幼兒の大に好むものなり、成長する時は之を取り人形の首となし衣服などきせて樂しむ、又口の中にいれ音を發せしめてたのしむは諸人の知る所なり。

(十五) あさがほ

葉を取りて左手の拳をゆるく握りその上にのせ右手にてうてば大なる音を出すまた葉の汁にて紋形(次にあり)を染むる時は甚だ美しくしき綠色を生ず又花を搾れば種々なる色を得、紙又はその他のものを染むることを得べし、紋形とは染物屋にて用ふる小紋形の紙様なるものを買ひて之を紙の上に



のせ朝顔の葉(又は其の他の葉にて)もにてこする
 時は甚だ美しく緑色の小紋形をあらはす、又朝
 顔の花蝋草の花にて前の如くなす時は種々の色紋
 を生ずるなり、筆を用ひ墨にてなすよりも容易に
 して且面白し

(十六)じゆす玉

鳩麥に類するものなり其の實の熟するを待ちて之
 をとり糸にてつなぎ輪など作る。

(十七)じやのひげ

葉は組みてムシロ草履等を作る、實は紫色のきは
 めて愛らしき小玉にて彈力あるを以てはづませて
 毬の代りになすを得べし。

(十八)かづら

野生の草なり、之を摘み來りて其の葉を細かに裂
 き束髮櫛などを用ひて髮をゆひて遊ぶ、柔かにし
 て毛の如し。

(十九)くちなしの實

くちなしの實成熟する時は幼兒をして之をとらし
 め糸、紙又は布を種々に染めしむ。

(二十)藤の葉の柄

藤の葉の柄は常に小供のひろひ集めて喜ぶものな
 り、之をあみて櫛、龜甲、籠、草履、網などを作
 らしめ興味深し。

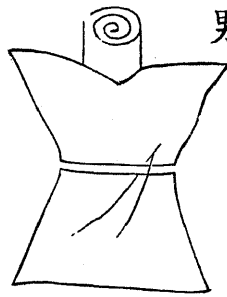
(二十一)玉蜀黍

玉蜀黍の皮は人形の頭を作るに用ゆ、毛は人形の
 頭の毛又は種々のものに用ひらる。

(二十二)柿の葉

柿の葉の美しく紅葉して落ちたるをひろひ之を
 きり松葉にてとめ次の如き人形を作る。

男



女

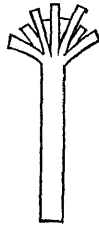


(二十三)ぎぼし

ぎぼしの葉を少しあたゝめて之をもみ口中にてふ
 くらまし糸にて結び手玉の代りとし又は之れに小
 孔を穿ちてほうづきの代りとする。

(二十四)きびから
きびからの外皮をばげば自由じゆうに物をさすことを得
されば棒片を之にさして鳥居梯子など作る事を得
べし。

(二十五)百合ゆり
百合の花瓣を取りて其取口より吹く時は膨くる、
ものなれば幼児は之を吹きて喜ぶ。



(二十六)麻あさの莖くきをとり之を管くだとしてほ
うづきを吹きあげるとを得。

(二十七)茄子なす
算盤の上に紙を置き茄子を以てその上をこする時
は紙に紫色の美くしきかたを生ず、又茄子に足尾
をつけて牛馬の形として弄ぶなり。

(二十八)稻いねの收穫しゆうわく
稻の穂熟すれば此の穂より吾人の日日食する白米
となす迄の事を小供に話し之れに用ふる器具即ち
稻つき、臼等は玩具にてもあれば之を以つて其の
方法の大畧を知らしめなば益する所多かるべし。

(二十九)松葉まつば

松葉をとり之れをいくつもつなげば鑽りを得べく
又之をあみて龜の甲の形を作るを得。

(三十)椿つばきの葉は
椿の葉を二つに折り葉柄の方より葉のさきの方へ
ときりその尖に小孔を穿ち葉柄を之れにさせば草
履の形となる之れは椿の葉のみならず椿の葉に類
する葉は皆かくなす事を得。

(三十一)石菖せきしょう
この葉は細長きものなれば之れを組みてくみ紙の
如く種々の形になし又はたゝみて石だゝみ等とな
す事を得。

(三十二)ひいらぎ
此の葉の兩端を第一指と第二指との間にはさみ、
口にてふけば風車の如く廻る、但し此の葉にはと
げあれば幼児には危険なり。

(三十三)竹葉ちくえつ
此の葉にて船又は飴結びをなす事を得、船を作る
には葉の兩端を少しく内方に折りて兩端をそらし
そらしたるもの一つを他の方へはさむなり。

又飴結びをなすには葉を葉柄と共にとり葉のさき

より三角に折りゆきて終りに其の葉柄を通すなり
以上は某氏の調べたるもの、匣底に残れるを掲げ
たるなり。自然物を材料とする遊戯の必要にして
且興味あるものなることは既に一般に認めらる、
所唯之を如何に實際に應用せらる可きかは實地保
育者の熱心に依頼するのな外し。

子供と両親

奇山人

子供に對して深い關係のあるのは、父親であるか
母親であるか、それは見やうに依ては、父親の方
であらう、又見やうに依つたら母親の方であらう、
仲々考へて見れば面倒な問題のやうであります、
けれど私は種々の方面より見て、母親の方に、よ
り大なる關係があらうと思はれます。

第一は肉體上の關係である。
子供は父母より生じたものにて、その初めに當
つて、何れが重く何れが軽しいと譯には參らぬ
としても、母の方には、胎内十ヶ月の間全然母の

肉體に依つて成長するものであるから、この間に
おける肉體上及び精神上、母より受ける感化は、
非常なものであります。この點に於て母親は父親
より大なる關係を持つものです、この關係は恰も
植物が地質次第で、善くも悪くもなると同じもの
である。地質が悪いのに、その植物が善くなる筈
はない。母親が悪くして、子供の善くなる筈がな
いのはこの通りであります。

第二は保育上の關係である。
子供は或一定の時迄には、母親の乳を飲む、父親
の膝の上に登ることは尠いのであるが、母親の膝
の上には殆んど間斷なく登つて乳を飲む、従つて
母親の肉體及び精神上的感化を受けることが夥し
いのである。即ち保育の大部分は、母親が掌るか
らであります。

第三には心理上の關係である。
母親の子供に關係多きは、只に前に記せる點
ばかりではない、やゝ長じても、父は多くは外に
出で職務が忙しい、殆んど全く母親によつて監督
され訓育される、子供の心理的狀態が母より多く